

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 10 月 12 日現在

機関番号：32653

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21590582

研究課題名（和文） 女性医師の離職対策とキャリア形成に関する総合的研究

研究課題名（英文） Research on women physician's career development in Japan

研究代表者

片井 みゆき (KATAI MIYUKI)

東京女子医科大学・医学部・准教授

研究者番号：20262719

研究成果の概要（和文）：女性医師の離職防止・キャリア向上のため、男女医学生と保護者を対象に意識調査を行った。女性医師の仕事と家庭の両立に対し、医学部入学直後の男子医学生の約 30%が否定的な意見を述べた。一方、女子医学生のほとんどは肯定的であったが将来への不安感が強く、男女医学生の意識に明らかな性差がみられた。女性医師のキャリア形成に関心を持つ保護者は、女子医学生の母親が最も高率だった。こうした性差をふまえて医学部でのキャリア教育を行う必要があり、ジェンダーバイアスの解消が医学における男女共同参画のためにも望まれる。

研究成果の概要（英文）： We conducted survey research among medical students and their parents to investigate about women physician's career in Japan. Attitude survey towards women physician's career development among male and female medical students just after entering medical school revealed apparent gender differences. About 30% of male medical students had negative opinion about women physician's career development raising child. On the other hand, most female medical students had positive opinion about that, but also had anxiety to future. Mothers of female medical students were most interested in women physician's career development among medical students parents' association. It is important for faculty members to recognize the existence of gender differences and bias for career education in medical school. We need to resolve the gender differences and bias to realize active and joint participation by men and women in Medicine in future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：境界医学・地域医療学

キーワード：女性医師支援・キャリア形成・ロールモデル・離職・仕事と家庭の両立・モチベーション・キャリア教育

1. 研究開始当初の背景

医学部入学者における女子学生比率の増加に従い、新卒医師における女性医師比率が増加している。20-30代においては女性医師比率が3割以上であり、若年層に限れば男性医師より女性医師の比率が高い診療科も存在する現状である。一方、家庭とキャリアの継続の問題が女性医師にとっての大きな課題となっている状況は依然続いている。女性の就業率が育児期に一時的に低下する現象はM字カーブと言われ、日本では従来から多くの職種で見られており、医師においても例外ではない。しかし海外の状況をみると、このM字カーブは日本と韓国以外ではほとんどみられず、国家資格を持つ高度な専門職である医師ではなおさらという状況がある。つまり人々の意識や社会的背景、労働環境、育児サポートなどによりM字カーブは消失することを意味している。日本では従来からM字カーブは仕方のないこととされてきた傾向がある。しかし、人々の命を支える医師職において、現在の女性医師比率で医療を支えていくにはM字カーブの解消が避けて通れない問題となることは言うまでもない。近年、女性医師の離職対策とキャリア形成については、文部科学省GPや厚生労働省予算なども生まれ、大学、行政、医師会、地域など各方面からの取り組みが始まった。しかし制度や育児環境が以前より整っても、若年層の女性医師の常勤職離れには歯止めがかかっていないように見える。また、セーフティネットとして生み出された時短制度やワークシェアリングが、最初からの到達ゴールとなってしまう場合や女性医師の特権として解釈されているような場合も見受けられる。我々がこれまで行った女性医師のキャリア持続についての調査研究で、「女性医師が家庭と仕事を両立する上で最も必要なことは何だと思

いますか？」の問いに対し、仕事を継続中の女性医師及び中断中の女性医師共に、筆頭に挙げた答えは「自分自身のモチベーションの持続」という結果であった。これらを踏まえ、今回、女性医師の離職防止やキャリア向上に必要なモチベーションを形成し保つにはどうしたらよいかについての研究が必要であると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は女性医師の離職防止やキャリア向上に必要なモチベーションを形成し保つにはどうしたらよいかについて明らかにすることである。本研究テーマとして以下の7項目を掲げた。1) 女性医師としての自覚を促す教育の有無が、その後のキャリア形成・維持にどのように影響を与えているかの比較研究、2) 大学や地域医療における女性医師ロールモデルの存在の有無が、その後のキャリア形成・維持に与える影響、3) 同年代や前後の年代の女性医師などの離職状況が、これから子どもを持つ予定の女性医師のキャリアプランに与える影響の調査、4) これから医師になる女性医学生の育児と仕事の両立に対する意識調査、5) 医学部入学者の女性比率増加のなか、医学部入学前の女子生徒及びその両親が、将来の仕事と家庭の両立についてどのような意識を持って医学部を志望しているかについての調査研究、6) 女性医師のキャリアについて、女性の医学生だけが学ぶ場合と男女医学生が共に学ぶ場合とで、その効果やモチベーション形成への影響の比較検討、7) 女性医師の離職率が低い他国での、キャリア教育の状況や対応策についての視察調査

3. 研究の方法

調査対象：医学生及びその両親を対象とした意識調査を行うために、我々が3年間継続的に調査を行いやすい環境が整っている母集

団として、信州大学医学部医学科に在籍中の男女医学生、保護者を対象とした。

方法：テーマ1)～6) (ただし3)を除く)について、聞き取り調査及びアンケート調査を行った。信州大学医学部の女子医学生とその保護者を対象にキャリアに関する不安や仕事と家庭の両立についてどのような意識を持っているかの聞き取りを行った。6)に関しては、信州大学医学部1年生を対象に女性医師のキャリアについてグループディスカッションを行い調査を施行した。方法の詳細は下記に述べる。上記研究テーマ1)、2)、4)については、信州大学医学部全学年の希望者対象に行った「女性医師のキャリア形成について考える会」の参加者で調査を行った。テーマ5)についての調査研究に関しては平成23年度信州大学医学部父母会において、全学年から参加した医学生の父母の中で女性医師のキャリア形成について考えるグループミーティングへの参加者に聞き取り調査を施行した。テーマ6)については、信州大学医学部1年生に対する医学概論の講義内で、講義前の個人の意識調査及び講義中のグループミーティングを通して調査研究を行った。7)の海外の状況視察では、女性医師のキャリア形成に携わっている立場の女性医師達が各国から集まる機会を利用することが最も有効と考え、カナダ McMaster 大学で開催された Gender and Health Institute: The Impact of Gender on Health by McMaster University, Hamilton, Canada (2009)、また 4th International Congress in Gender Medicine, Berlin Germany, November 6-8, 2009 に参加し、各国の女性医師達に聞き取り調査を行った。テーマのうち3)に関しては、今回適当な調査対象を抽出することが困難であったため今回は最終的にテーマから除いた。

4. 研究成果

信州大学医学部1年生に対し、入学後直後から行っている医学概論の講義の一コマに「医師としての使命と生涯にわたるキャリア形成について考える」という枠があり、その講義の前後や講義中のグループディスカッションやアンケートを通して、女性医師が働き続けることに対する学生の意識調査を行った。医学部入学後間もなくの時点であるが、女子医学生においては希望とやる気にあふれる反面、医師の世界も家庭を持つことも共に未知の世界であり、将来両立していけるのかに対してほとんどの学生が不安に感じていることが判明した。医学部入学直後からはほとんどの女子医学生は仕事と家庭の両立において将来に不安を抱いていたが、男子医学生で同様の不安を抱くものは稀であり、明らかな性差が見られた。また、男子学生においては女性も男性も医師としてキャリア継続ができるように共に助け合って行こうといった積極的な意見もある一方で、「家庭をもつ女性医師が働き続けることは無理だと思う」「子どものために好ましくない」といった悲観的あるいは否定的な答えが男子医学生の約30%にみられた。このような答えをする女子医学生は稀であった。女性医師が仕事と家庭を両立することに否定的な意見を持つ医学生の男女比は圧倒的に男性に偏っており、明らかな性差がみられた。また、多くの女子医学生が抱える仕事と家庭の両立への不安感は、講義や講義後の座談会を通じて、仕事と家庭を両立する女性医師達と実際に会って話を聞くことで、ほとんどの女子医学生は「不安が軽減した」と答えている。その反面、女性医師が家庭と仕事を両立することに否定的な考えをもつ男子医学生の意見は、少なくとも講義直後には大きくは変わっていなかったことが対照的だった。これらの意

識が、どのような個人的・社会的背景と相関があるのか、将来の志望選択科との相関があるか、その後の医学部教育や研修医教育を受けるなかでどのように変わっていくのか、将来女性医師と結婚した場合に妻が仕事を続けることにどのような姿勢を取るかの相関があるかなど、今後の研究課題として大変興味深い。いずれにしても、医学部入学直後の時点で、女性医師が家庭と仕事を両立することへの肯定感と否定感において、男女医学生意識に大きな性差があることを周囲や教育者が認識することは、その後のプロフェッショナル教育を行う上で重要なことと考える。また、医学における男女共同参画の実現のためにも、こうした性差や偏見が解消されることが望まれる。

医学部父母会の際に、女性医師のキャリア形成について、保護者全体に対するセッションと保護者有志に対するアドバンスセッションを設けたが、後者に参加したほぼ全員が女性医学生の保護者であった。かつ出席者の内訳は母親の方が父親に比べ圧倒的に多かったが、父親だけの参加、両親での参加も見られた。全体セッションでは、大学で活躍する女性医師の話や女性医師のキャリア継続上の障壁、女性医師の離職が増えると男性医師へどのような影響があるかなどのお話を取り上げた。その話を受け、アドバンスセッションに参加した保護者からは、「娘が医師として家庭を持ちやっつけられるのかと不安に思っていたが、女性医師達の話が実際に聞けて迷いが飛んだ。単なる個人の問題ではなく、社会的な問題として、娘が医師という道を選んだ以上その道を全うできるよう、親としても育児サポートなどをしていきたいと思う。」という意見が多く聞かれた。医師のキャリア問題に対する保護者の関心は予想以上に高く、今後もアプローチが有効であ

ると考えた。我々の過去も調査でも、キャリアを継続している女性医師の多くが子どもの病気など緊急時の育児サポートに両親に頼っている現状があり、これがベストな状況かについては意見が分かれるところではあるが、いずれにしても幼少の子どもを抱える医師にとって両親からのサポートがあるに越したことはないだろう。また、上記調査で女性医師が仕事を続ける上では、配偶者や家族の理解が必須項目として挙げられており、女性医師の8割前後が医師と結婚する状況を考えると、男子学生の保護者が女性医師のキャリア継続に理解を深めることは将来的に役に立つことと再認識した。

海外視察として国際性差医学会でカナダ、オランダ、ドイツなどの状況について聞き取り調査を行った結果、カナダやオランダなどでは、女性医師の増加に従い、医学教育へも積極的に性差医学の視点を取り入れていることがわかった。また、女性医師が教授職や副学長などさらなる上位職へ登用され、若手女性医師や医学生達のロールモデルとなっていた。一方、ドイツでは、女性医師が増えても教授職などの上位職に就く女性医師に比率は欧米諸国に比して依然少なく、それが女性医師全体のモチベーション低下にもつながる可能性が示唆された。この問題は日本においても同様であり、女性医師にとってロールモデルの重要性を再認識した。今後、日本でも女性医師のキャリア継続の問題において、離職防止や育児サポートだけではなく「キャリア向上」への視点が必要である。日本においても、今後、上位職を含めて女性医師の登用を活性化し、女性医師としての「ロールモデル」を提示していくことが女性医師全体のモチベーションを向上させ、離職防止へつながると考える。

また、カナダ McMaster 大学で開催された The

Impact of Gender on Health 会議では欧米、日本、アフリカなどの女性医師キャリア支援にかかわる医師らが招聘され、医学研究や医学教育と性差に関するディスカッションなどと共に、女性医師としてのキャリア形成プログラムも組み込まれていた。なかでも副学長を務めるカナダ人女性教授を囲み、女性医師が成功する秘訣についてのセッションが印象的だった。彼女の成功の秘訣やキャリアを積み上げる上でのモットー、家庭との両立のこつ、組織の中で円滑な人間関係の築き方などを拝聴した。和やかな雰囲気の中で各国の女性医師達が情報を共有し、互いに励まし合った。同様な取り組みが日本でも行われつつあるが、学内で高いポジションに就く女性医師がまだ少なく、こういった機会を大学や国の垣根を越えて開催する機会を設けていく必要性を感じた。

以上を踏まえ、女性医師の離職対策とキャリア形成において、基盤としてまず必要不可欠なことは女性医師・女子医学生自身のモチベーション形成である。医学部入学直後から多くの女子医学生が抱える仕事と家庭の両立への不安感は、家庭と仕事を両立し女性医師として活躍するロールモデルと出会うことで軽減した。女性医師が生涯にわたりモチベーションを維持していくためには、女性医師においてもキャリア向上の道が開けていることを示すロールモデルがより多く存在することである。家庭を持つ女性医師が働くことへの否定的な意見を約3割の男子医学生が入学直後から示しており、その背景の解析や対応は今後の研究課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

1. 片井みゆき 性差医療日本病院薬剤師会

雑誌 48.157-161, 2012

2. 片井みゆき, 川上順子, 東京女子医科大学男女共同参画推進局 女性医師再教育センターの活動紹介, 研修医通信 40, 15-17, 2011
3. 川上順子, 中村真一, 片井みゆき 女性医師復帰支援プログラム (Vol. 5) 女性医師復職における女性医師再教育センターの意義 医学のあゆみ 233 巻 12 号, 1179-1183, 2010
4. 片井みゆき, 「女性医師としての自信」という概念, Women in Medicine, 日経 Medical Cadetto10, 63, 2009
5. 片井みゆき, Women in Medicine @ 標高 2450m, Women in Medicine, 日経 Medical Cadetto11, 23, 2009
6. 片井みゆき, “壁”の歴史が教えてくれたこと, Women in Medicine, 日経 Medical Cadetto12, 83, 2009

[学会発表] (計10件)

1. 片井みゆき, 女性のライフステージを考慮した健康づくり, 厚生労働省 平成 24 年「女性の健康週間」イベント講演会 (招待講演) 2012 年 03 月 05 日, 東京
2. 片井みゆき, 性差を考慮した医療。岡山大学 MUSCAT Women's Leadership Seminar 第 1 回特別講演 (招待講演) 2012 年 02 月 12 日, 岡山
3. 片井みゆき, 男性医師も女性医師も輝いて生涯活躍するために, 2011 年度 信州大学医学部父母会講演会 (招待講演), 2011 年 10 月 30 日, 信州大学医学部, 松本市
4. 片井みゆき, 女性医師がかかえる諸問題と望まれる対応 生涯“輝いて”活躍するために, 第 84 回日本内分泌学会学術総会 クリニカルアワー (招待講演), 2011 年 4 月 23 日, 神戸
5. 片井みゆき, 女性医師も男性医師も共に、輝いて活躍するために…! 「女性医師がかかえる諸問題と望まれる対応」, 第 10 回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会, 2010 年 7 月 3 日, 大宮
6. 片井みゆき, 東京女子医科大学での再教育の取り組みについて, もう一度学習しておきたい日常臨床・女性医師支援プログラム, 2010 年 3 月 22 日, 藤田保健衛

- 生大学
7. 片井みゆき、性差医学・医療：臨床から医学教育まで、The 7th Gender Medicine Seminar、2010年2月22日、東京医科歯科大学
 8. Miyuki Katai, et al. Gender Medicine Enhances Diagnostic Ability The Impact 4th Congress Internal Society of Gender Medicine of Gender on Health2009/11/7 Berlin, Germany
 9. Miyuki Katai, Integration of Gender Medicine in Japan. 2009/10/16 McMaster University, Hamilton, Canada
 10. 片井みゆき、女性医師も男性医師も一輝いて生きるためにー、医師のキャリアについて語る医学生会の会、2009/06/15、信州大学医学部附属病院、松本

[その他]

ホームページ等 (計8件)

1. 長野県公式ホームページ・女子医師リレーエッセイ (最終回) 女性医師が仕事を続けるために必要な「外なる砦」と「内なる砦」2012/09/25
<http://www.pref.nagano.lg.jp/eisei/imu/joseiisi/essay/essay14.htm>
2. Muscat Newsletter vol.11 女性医師・医学生サポートネット岡山県女性医師キャリアセンター運営事業 2012/5/2 発行
<http://www.okayama-muscat.jp/okayama/wp-content/uploads/2012/05/newletter11.pdf>
3. 岡山大学医療人キャリアセンター23年度キャリア報告
<http://www.okayama-muscat.jp/okayama/category/report/year23/page/2>
4. 女性医師の就労環境に関する実態調査 全国医学部長病院長会議
<http://www.ajmc.umin.jp/23.12.15-16-jyosei.pdf>
5. CareNet 女性医師の為の復職支援 第6回 女性医師の復職支援と再教育 今

後の発展に寄せて：様々なケースと取り組みを考える

<http://www.carenet.com/utility/fukusyoku/06.html> 公開日：2011/02/09

6. 長野県公式ホームページ・女子医師リレーエッセイ (第2回) 女性医師も男性医師も共に、輝いて生きるために…!

<http://www.pref.nagano.jp/eisei/imu/joseiisi/essay/essay2.htm>

7. 岡山大学病院・女性を生かすキャリア支援計画

<http://www.okayama-muscat.jp/jyosei/evaluate.html>

8. 読売オンライン連載医療の現場<女性医師・4>次の世代へ語りかける

2009.6.22

http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/nagano/feature/nagano1212673262669_02/news/20090621-OYT8T00735.htm

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片井みゆき (東京女子医科大学医学部・准教授・信州大学医学部・委嘱講師)

研究者番号：20262719

(2) 研究分担者

櫻井晃洋 (信州大学・医学部・准教授)

研究者番号：70262706

(3) 連携研究者

加茂登志子 (東京女子医科大学・医学部・教授) 研究者番号：20186018

福嶋義光 (信州大学・医学部・教授、医学部長) 研究者番号：70273084